

ある。そのわけは莖に悪臭があり、その悪臭に魔を払う力をみとめて呪術用にひろく使われるからであるという。ニワトコは細かい白っぽい花が集まり咲く点も、花後に赤黒い液果が熟する点も亦ムシカリ、ニシゴリの面々とびったり符合する。呪術に使うとあればアイヌ人と接触をしていた日本人の先祖もまた十分にその影響を受けたであろうことは明らかであり、ましてムシカリの別名オオカメノキが私の説く如くオオガマズミで大神ッ実から来ているとあれば、そこに日本人の祖先が民間信仰としてオオカメノキに対して持っていた信仰の手掛りをも提供することになる。これを整頓すると下のようになる。

- 1) アイヌ人の臭気を除魔力とする信仰の対象。シコルニ→シコンニ(エゾニワトコ)として残存。
- 2) 日本人が上記に接触、オオカメノキに導入。今はムシカリという恐らく一部欠損の名となって残存。
- 3) つづいてさらに南方に波及し、白花平頂の繖房花序、液果の属性の方が重視されて類似形態の植物に名がうつる。それらは原義を喪失し、附会語源的発想にゆがめられてニシゴリ(錦織)、ウシコロシ(牛殺)などと変貌して残存。

これらをつらぬくものはシコリ(糞を持つ=悪臭の木)の語幹である。シコリの分布の一次的な南限はアイヌ分化の南限を画することになるかも知れない。

(東京大学理学部植物学教室)

○北極圏内に見出された4種のケシ (小林義雄) Yosio KOBAYASI: Four species of *Papaver* found in arctic region

極地の高等植物に寄生する菌の研究は従来寄主植物の属の単位で討論されることが多かった。しかし菌群によっては、特に寄生菌では寄主の種類或はそれ以下の Taxa の相異による特別品種 (forma specialis) を考慮する必要も生じて来るわけで、菌の分布を考慮する場合には一層この点が問題となる。極地のケシにつく菌としては従来 *Diplodina papaveris*, *Clathrospora pentamera*, *Pyrenophora paucitricha*, *Py. chrysospora*, *Pleospora scrophulariae*, *Pleospora herbarum*, *Mycosphaerella tassiana* 等が報告されているが、これらは再検討する必要があるし、まだ多くの菌が見出される可能性がある。この意味で極地産のケシにも注目した次第である。

アラスカ極地では *Papaver radicatum* Rottb. が arctic poppy の名で訪れる人に親しまれ、ツンドラ内の arctic heath に普通に見られ、8月はじめには可憐な黄色花が目を楽しませてくれる。次に1966年8月半ばにスピッツベルゲンを訪れた際に山の斜面の岩礫の間に白花をつけるケシを見出した。これは Rønning の Svalbards Flora (1964) によれば *Papaver dahlianum* Nordh. に当る。しかし Polunin の Circumpolar Arctic

Flora (1959) ではこの種は広義の *Papaver radicatum* の中に含まれている。私の見たところでは花色の相異のみでなく、生態や、葉のあらっぱい点もアラスカ産と同一種のカテゴリーにはとても入れ難い。これらの標本と同時に種子も採集し 2~3 の人々に播種を依頼したが、何れも失敗した様子であった。そんなことで 1 年以上疑問のままにして置いたが、最近モントリオールの A. Löve の論文 (Nomenclature of North Atlantic Papavers, in *Taxon* **11** (4): 132-138 (1962)) を見るに及んで疑問は氷解した。彼は細胞分類学の見地から北太平洋の極地およびその附近に生ずるケシに 4 種を区別し、その各々に多くの亜種や変種を含ませた。これによれば染色体の基本数は 7 である。

Papaver radicatum Rottböll (1770) は 8 倍体 ($2n=56$) で分布はグリーンランド、カナダ極地を中心とし、一部はアラスカに、また *ssp. lapponicum* Tolmatchev がラブランドからシベリヤの一部に分布する。

Papaver dahlianum Nordhagen は 10 倍体で $2n=70$ 、スピッツベルゲンおよびスカンジナビヤ北部に分布する。これで 2 種を分ける明らかな根拠が出来た訳である。彼はまた *Papaver Nordhagenianum* Löve と *P. cornwallisense* Löve の 2 種を新しく発表しているが、前者は $2n=70$ でスカンジナビヤ、フェーレー、アイスランドに分布し後者は 12 倍体 $2n=84$ でカナダ東北地方、Cornwallis 島を中心に限られた分布を示す。Savile (1964) によれば、この地方は極地産菌の分布から見て重要な中心をなすものといわれているが、両者の関連を考えて見ると興味がある。

アラスカ極地の heath 地帯には別に *Papaver macounii* Greene が散見される。これはマッキンレーのあるアラスカ連峯をはじめとして南はセワードまで分布する。花弁の縁に不整な凹突が著しく、花色は黄であるが、風や他物に触れて傷付いたり乾いたりすると部分的に緑色のしみが出来ることは写真に示す通りである。

昨年 (1967) の夏、2 度目のアラスカ極地調査に際してカナダ国境に近い Peters Lake 附近の Chamberlin 山 (ca. 2,700 m) にかかる同名の氷河にたどりついた時のことである。モレーンの間に美しい鮭肉色の小形のケシを見出した。ほとんど人間の訪れたことのない境地にはじめて見るケシであるから、新しいものかなとわくわくした心地で寄生菌ごと採集した次第である。しかしこれは最近発表せられた *Papaver alboroseum* Hultén に相当し、アラスカ中南部に分布し、Peters L. 附近でも既に 1956 年に McVicar によって採られていることが判った。

(国立科学博物館)

Explanation of the Plate IX

Fig. A. *Papaver radicatum* Rottb. (Barrow, Alaska) Fig. B. *Papaver macounii* Greene (Barrow, Alaska) Fig. C. *Papaver dahlianum* Nordh. var. *spitsbergense* Löve (Longyearbyen, Spitsbergen) Fig. D. *Papaver alboroseum* Hultén (Chamberlin glacier, Alaska).



Y. KOBAYASI: Four species of *Papaver*